

「外部管理者方式」に理解

マンション管理士 四国初の全国研修会



外部管理者方式について理解を深めるマンション管理士ら—高松市サンポート、かがわ国際会議場

マンション管理事務の専門家である「マンション管理士」が全国から集まる合同研修会が8日、高松市サンポートのかがわ国際会議場であった。管理士ら約90人が行政の住宅政策担当者や弁護士らの講演を通じ、マンションの「外部管理者方式」について理解を深めた。

合同研修会は、日本マンション管理士会連合会が毎年、全国各都市の持ち回りで開いており、四国での開催は初。18回目となる今回

は、マンションの老朽化が進み、住民間で管理組合の役員になる人材が不足していることから「外部管理者方式」に対応できる管理士の育成」をテーマにした。

国土交通省の住宅政策担当者は「全国の方譲マンションを巡っては、建物の老朽化と住民の高齢化という『二つの老い』が進行しており、こうした物件は管理組合の担い手や修繕積立金が不足するなどの課題が顕在化する恐れがある」と指摘。管理、再生の円滑化に

向けた制度とともに管理意識の向上につながった取り組み事例などを紹介した。

県や高松市の担当者の講演では、県内には分譲マンションが約2万3400戸あり、住宅戸数全体の6%を占めていると説明。同市内の方譲マンションは20年後には、築40年超が現在の4・4倍に増えると予想されることから、市は▽定期的な確実な実態調査▽管理不全マンションの助言指導の推進▽新たな施策の検討—が必要とした。